



TITLE:

和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科). KINOKUNI 2012, 82: 16-16

ISSUE DATE:

2012-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180725>

RIGHT:

© 和歌山昆虫研究会

和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科)

Emergence of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) on the cast-skin in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

南日本に広分布する我が国の最大種クマゼミ *Cryptotympana facialis* (カメムシ目 = 半翅目, セミ科) は夏季が盛りの出現である。今回、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内の一角で、1 個体が脱皮殻の上で羽化していたのに 2012 年 7 月 23 日に気付いたので報告する (図 1)。マサキの別の葉では 3 個体が並んで羽化していたが、お互いの間隔を少しあけての状況であった。この日にはその一角に 38 個体の抜け殻があった。大半はハマユウやマサキの枝や葉の上、並びに京都大学白浜水族館の壁で羽化しており、殻のあった高さは数 m 以内であった。これらの抜け殻は全部この日に地面に落とし、その後の羽化してくる数をその日より約一か月間、5 回間隔をおいて数えたところ、総数は 65 個体となった。しかし、本例のような脱皮殻上での羽化は二度と見られなかった。構内での 2012 年のクマゼミの初出現は 7 月 3 日だったので、それから 1.5 箇月間も羽化がこの一角ではおこっているといえるが、大半の 59 個体の羽化は 7 月中だったので、8 月には少数 (6 個体) しか羽化していないことになる。



図 1 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内のマサキの葉の上で脱皮殻上で羽化したクマゼミ

今回のような脱皮殻上で羽化の例は、今後も構内で稀であろうが、セミの密度が高い場合には起こりうるかもしれない。今回のように、高さ数 m のこの場所 (マサキの葉) へ後からやってきた幼虫は、そこからもう移動せず、脱皮しなくてはならない時間的制約なども働いて、既にあった脱皮殻を足がかりとして羽化せざるを得なかった状況が生じたのであろう。

末筆ながら樹木の同定を下された京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所の梅本信也博士に深謝致します。

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)